



OITA MEDICAL CENTER

# 大分

59号

平成29年新春

大分市横田2丁目11番地45号  
独立行政法人 国立病院機構 **大分医療センター**  
編集発行 広報誌編集委員会  
大分医療センターホームページアドレス  
<http://nho-oita.jp/>



## 謹賀新年

レゾネイトクラブくじゅう（大分県竹田市久住町）にて／撮影：経営企画室長 田辺 俊介

### 基本理念

OITA MEDICAL CENTER

最新の医療技術・知識の修得に励み  
病める人の立場に立ち  
人の尊厳・権利を尊重し  
「愛の心・手」で  
最良の医療サービスを提供します

### 基本方針

- 一 365日24時間断らない診療を目指します
- 一 大分県地域医療支援病院として、地域へ貢献します
- 一 大分県がん診療連携協力病院として、がん診療の充実に努めます
- 一 垣根を越えた連携によるチーム医療の充実に努めます
- 一 地域に根ざした積極的な広報活動と情報発信に努めます
- 一 安定した医療を提供するため、健全経営を志向します

## 目次

新年のご挨拶 .....	2	キャンドルサービスに参加して .....	9
第70回 国立病院総合医学会 .....	6	クリスマス・コンサート開催！ .....	9
平成28年度 医療安全研修会 ヒヤリハット小劇場 第7弾 .....	8	がん相談支援センター .....	10
特別医療安全研修会 最強医療コミュニケーション なんでやねん力 .....	8	初めての学会発表 .....	11
		合同忘年会に参加して .....	12
		編集後記 .....	12

# 新年のご挨拶



院長  
室 豊 吉

新年明けましておめでとうございます。

皆様気持ちも新たに、そして健やかに新年をお迎えることと思います。今年も酉年ですが、酉のつく年は、商売繁盛に繋がると考えられ、また物事が頂点まで極まった状態が酉年だと言われています。当院の今年がこの酉年にふさわしい大きく羽ばたける1年になることを祈念しています。

昨年は、夏のブラジル・リオオリンピックにおける日本のメダルダッシュに湧き（金12、銀8、銅21の計41個ですが、個人的には陸上競技男子4×100mリレーの銀メダルに最も感動しました！）、晩秋にはノーベル医学生理学賞を大隅良典東京工業大学栄誉教授が単独受賞の朗報が届きました。細胞自身が不要なたんぱく質を分解する仕組み「オートファジー」を分子レベルで解明したことによるもので、パーキンソン病などの神経変性疾患にも関係するといわれ、今後の研究が注目を集めているそうです。

当院の昨年は2月27日（土）に、日本医療マネジメント学会第16回大分支部学術集会を穴井副院長が学会長として主催し、成功裡でスタートしました。当院をアピールする第2弾のプロモーションビデオも多くの職員の協力のおかげで作成できました。

国立病院機構の3回連続してのQC活動奨励表彰は逃しましたが、11月沖縄での総合医学会では4題の口演発表、14題のポスター発表があり、それぞれ1題ずつベスト賞に選ばれ、また5名が座長を務め、“大分医療センターここにあり”をアピールできたと思います。

さて1年前と重複しますが、当院の最大の懸案である「外来棟等建替え改修工事」です。昨年12月1日時

点ですが、実施設計を策定中で、今後設計が順調であれば3月下旬工事入札となる予定です。皆様ご存知のように、昨年度は独立行政法人化後当院としては初めての経常収支が100%を切りました。公経済負担金と労働保険料の施設負担金や医師削減など多くの原因があったとはいえ、今後を考えれば危機的です。今年度も新入院患者数や救急車搬送数は昨年度を上回っていますが、多少在院日数の短縮もあるものの、平均入院患者が目標をはるかに下回っています。今年度の残りが3か月を切った今ですが、危機感をもって、職員一丸となり、全力投球・全力疾走をお願いします。今を逃すと「外来棟等建替え改修工事」は消滅の可能性があります。消滅させてはなりません。昨年の新語・流行語大賞は広島カープ緒方孝市監督の「神ってる」でしたが、我々も大分医療センターの「神ってる」力を遺憾なく発揮しましょう！そして「新しい外来棟等」を我が手でつかみましょう！

当院は、大分県地域医療支援病院として、大分県地域がん診療協力病院として、開放型病院（オープンシステム）として、さらに大分市2次救急医療固定輪番制病院として、大分県南地区や大分市東部地区を中心とした地域に、当院の基本理念にある“愛の心・手”で、最良の医療を提供しなければならない責務があります。医療人は常に向上心を持ち学ばなければなりません。そして今まで以上の“働いて楽しい働き甲斐のある病院”にしましょう。

最後になりますが、今年が皆様にとっても当院にとってもより良い年となりますよう、そして皆様の今年1年のご多幸とご健勝を祈念いたします。



# 2017年新年の挨拶



副院長  
穴井 秀明

新年明けましておめでとうございます。新春のお慶びを申し上げます。本年もどうぞよろしく願いいたします。

2016年4月に熊本、大分の大地震がありました。本震の時、私は学会で大阪のホテルの17階の部屋に泊まっていたのですが、深夜、突然ギィギィという音がして部屋が振り子のようにゆっくりと大揺れになり、大阪が大地震に見舞われたと勘違いしました。この時、大阪は震度3でした。熊本の災害地に当院のDMATの派遣も検討され、忙しい中での隊員の選抜とレンタカーまで借りて準備万端のところ、ドタキャンになりました。関係者の皆さんには本当に大変ご迷惑をかけた。

世界的にはリオのオリンピック・パラリンピックの準備が不十分なままでしたが、どうにか無事に終了しました。日本では猛暑のなか連日のオリンピック・パラリンピックの熱戦に興奮しました。医療関係者としてはジカ熱の感染の広がりを心配していましたが、特に問題なかったようです。3年後の東京オリンピック・パラリンピックに関しては、現在、競技場などのハードの面で大変問題になっていますが、私は開催前や期間中のスーパー台風や大地震などの天災のほうが大変気になります。

さて、当院の現在の外来棟は見かけ上はそれほど古く見えませんが、台風などの雨風で至る所に雨漏れが発生します。一時的な雨漏り補修工事が続いています。致命的になる前に新外来棟の完成が切望されます。外来棟建替工事の進捗状況は最終設計に入り、今年3月末頃に入札の予定です。

主な業務の一つとして医療安全に関する事があります。年2回の病院職員対象の医療安全研修が義務付

けられています。講義中心の医療安全研修会では、医療事故の臨場感などを伝えるには限界があると考え、2013年（平成25年）より、当院バージョンの「ヒヤリハット小劇場」を導入して計7回の上演を行いました。当院で実際に起きた事例の中で、繰り返し起きる事例、重大な事故に発展する恐れのある事例で各職種が共有できる事例を小劇場として企画、上演しました。①医療事故が起きた場面の再現、②防止策を盛り込んだ場面、③意見交換と専門家からの提言の3部構成としました。講義形式の医療安全研修会と比較して職員の参加率は1.6～1.8倍に増加しました。

平成28年11月16日（水）には、特別医療安全研修会として日本初の漫才式セミナー講師として活躍されているWマコト（中山 真、中原 誠）のお二人をお迎えして『最強医療コミュニケーション「なんでやねん力」』というテーマで講演をしていただきました。会場の大会議室に入れきれなかった人は中会議室の第2会議室でTVモニターを設けてみていただきました。医療安全研修会で初めてこんなに笑って、楽しくコミュニケーションについて学ぶことが出来た等のご意見が寄せられました。

医療現場は常にリスクとは隣り合わせです。また“人はだれでも間違える”という事を前提に人に責任を押しつけるのではなく、その背景やシステムの改善など多職種チームで医療安全文化を構築していきたいものです。

今年は酉年で、輝かしい未来へ羽ばたこうではありませんか。本年も皆さまのご多幸をお祈りいたします。



# 新年のご挨拶



統括診療部長

奈須 伸吉

大分医療センター職員の皆様方、明けましておめでとうございます。昨年も、患者さんと病院のため、ご自身とご家族のために精一杯頑張られて大変ご苦労様でした。ご努力と奉仕の心に敬意を表します。

明けて2017年、酉年になりました。年末年始休みは6連休と短く、その間に勤務された方も多かったと思います。昨年の疲れは取れましたでしょうか。今年も健康にはくれぐれもお気を付けください。

さて昨年は、申年の年頭に“挨拶と親切心”について書かせていただきましたが、皆様いかがでしたでしょうか。毎朝、顔を合わせたときに「おはよう」「大丈夫ですか」と声を掛け合うだけで、互いの気持ちがほぐれることで心に余裕が生まれて失敗が減り、医療安全上もとても大切なことです。今年も、元気で明るく挨拶と親切心を心がけましょう。

病院は様々な職種で構成されており、役割はそれぞれ違いますがみな医療のプロフェッショナルです。スムーズなチーム医療の遂行には、プロとしての自覚・責任感是不可欠ですが、何より互いに尊敬し合いながら自分の仕事に誇りを持つことが大切だと思います。そして、同じやるなら喜んでやりましょうよ。いやいやするのは相手に失礼だし、嫌いなこともこつこつ努力したらきっと好きになれますよ。好きになれたら一生懸命やれますよ。どんな辛抱でも、きっと先々使え

る蓄えになると思います。

人は誰でも失敗します。「患者さんに影響のない小さな失敗なら、ちっとぐらい大丈夫。みんなが助けしてくれるわ。」とこっそり考えておくのはどうでしょう。ある意味凶々しさも必要ではないでしょうか。

「失敗したらどうしよう」「絶対失敗できない」と考えすぎると委縮します。立派にミスなく完璧にとは考えず、鈍感に、無心になってみてはいかがでしょう。

私は今まで、大小の失敗を数多く経験し、痛い目にあって色々学びました。それは、失敗した時に大切なことは、まず深呼吸をして自分の気持ちを落ち着かせること、一人で抱え込まずに他の人に相談すること、そしてその場から決して逃げないこと。そうしたら皆が助けてくれますよ。私も、多くの人から助けられて何とか今まで乗り切れてきました。どんな時もくよくよせず、へこたれずに、前向きにゆきましょうよ。

昨年は夏目漱石没後100年、今年は生誕150年です。色々な催しやテレビの特別番組があります。漱石は、「牛のように根気強く押してください。花火のようではいけません。」と述べており、あせらずこつこつ鈍牛で行くのが良いのでしょうか。お互い困難な時代に生きていますが、皆で力を合わせて一歩一歩進みましょう。今年も一年間よろしく願いいたします。

# 新年のご挨拶



事務部長

姉川 俊也

明けましておめでとうございます。

今年もどうぞよろしくお願いいたします。

酉年が始まり、何となくインターネットで「今年の話」を検索したところ、予想どおり「トランプ氏が1月20日に第45代アメリカ合衆国の大統領に就任する」ことがトップで出てきました。

大統領戦では、過激な発言を繰り返したことで世界中を驚かせながらも当選しましたので、大統領就任後の経済政策等の動向が注目されています。果たして「アメリカ・ファースト」を掲げるトランプ氏の舵取りが、日本の安全保障や貿易協定等に影響を与えることは確実なのでしょうが、世界でも類のない「超高齢化社会」を迎える日本のこれからの政策に沿った、「追い風発言」が出てきて欲しいものです。

さて、旧年中は「経常収支率アップ」を目指し、いろいろ皆様をお願いをいたしました。ご協力いただきありがとうございました。今年度も残すところあと3ヶ月ですが、収支率アップを達成するためにはもう一踏ん張りしなければなりませんので、引き続きよろしくお祈りいたします。

新年を迎えて改めて我が大分医療センターの一番の懸案を考えますと、いよいよ外来棟等建替改修整備のための入札が3月に予定されていることです。機構本

部からの同意を得て既に2年と2ヶ月が過ぎましたが、出来るだけ早く落札業者を決めて、老朽化している外来部門の建て替えに着工したいと考えています。

まだ、話をするには少し気が早いかもしれませんが、工事が始まれば現在の外来棟玄関部分から病棟渡り廊下までの建物（手術棟を除く）を順番にスクラップ・アンド・ビルドを繰り返しながら新築されていきますので、玄関から病棟までの導線を数回変更しながら約3年半の工期がかかるかとされています。

職員の皆様には不便なことも出てくると思いますが、少しずつ変わる病院の姿を見ていただきながら、完成すれば真新しい外来で診療（愛の心・手）が行えることを日々の業務の励みとしていただきたいと思います。

古い話になりますが、当院はかつて昭和57年度に全国一位の収支率を残した実績があることをご存じでしょうか。もちろん時代が変わり医療の内容も大きく変化していますが、再びこの「酉年」を契機として大分医療センターが進化していけるように大きく羽ばたいていきたいと思います。

今年も職員の皆様のご多幸となりますことを祈念いたします・・・。



# 新年のご挨拶



看護部長  
松山 恭子



謹んで新春のご祝詞を申し上げます。

昨年は、「丙申」でこれまでの頑張りが形になっていく、物事が進歩発展していくという年でしたが、皆さまにとってどのような一年だったでしょうか？

昨年初めは大変厳しいスタートで、年度が変わり4月には、診療報酬の改定で、超高齢社会における医療政策の方向性が示され、急性期病院には冷たい向かい風が吹きだしました。そして熊本を震源とした地震発生、大分県では震度6弱を観測し、私の自宅も一部損壊する程の状況でした。しかし新年度、新しい職員も加わり、これまでの皆さまの頑張りが形になっていきました。そのひとつが、地域医療連携看護師、退院支援看護師を中心とした退院支援です。地域包括支援システムが推進される中、患者が安心して、住み慣れた地域で療養や生活を継続できるように地域連携、院内連携の強化を図り、積極的な退院支援に取り組み始めました。関係者間でのカンファレンスの他、必要な場合は、退院前訪問や退院後訪問をケアマネジャーや訪問看護師等とともに実施する等、在宅でも安心して療養できるように支援しています。また認知症看護の充実にむけて、研修会を開催、更にはがん看護の質向上を目指して、認定看護師の育成等、一歩ずつ地域での当院の役割が果たせるよう、体制整備に努めているところです。

そして私がとても印象に残っているのが、リオオリンピックでの男子400mリレーです。4人のバトンパス、感動しました。あの人類最速のウサイン・ボルト選手に近づくとは・・・世界を驚かせた4人の選手。彼らは仲間を信じて、前だけを見つめて走ったと話していましたが、走力を補うためにバトンを手渡す技、世界でも珍しい「アンダーバトンパス」を取り入れてタイムを縮める努力をしてきたそうです。その努力が実って銀メダル、ボルトを驚かせたことを考えると金メダルにも相当する活躍だったと思います。仲間を信じて取り組むチームワーク、足りない所をどのように補完するか、そして結果をイメージして努力する姿勢。完成度が高く、選手自身の満足感も大きかったように感じました。

当院のチームワークは、暮れの忘年会でもわかるようにチームの結束力、演出力は抜群です。新外来管理棟をイメージしながら、今まで以上に部門間の連携、補完体制を整備することで、私達が望む新大分医療センターが完成できると信じています。

今年は、酉年（丁酉・ひのととり）。安定する、はばたく、取り込む等、縁起のよい年です。飛躍の年にできるよう、皆さまの「愛の心・手」で、地域につながり続け看護に取り組んでまいりましょう。本年もご協力をよろしくお願いいたします。

# 今年も積極的に QC活動に取り組みましょう



薬剤部長  
村上 直幸

新年あけましておめでとうございます。本年も宜しくお願い致します。

昨年4月には熊本・大分地震があり被災した方にとっては大変な年であったと思います。改めてお見舞い申し上げます。一方QC活動報告は昨年機構本部に推薦されましたが賞を獲得する事は出来ませんでした。しかし一昨年まで連続で優秀賞・特別優秀賞に輝きました。非常に素晴らしいことと思います。今年もまた当院からそのようなQC活動の報告を出したいと思っています。

薬剤部では今年から病棟薬剤業務実施加算を算定します。これは全ての患者さんが対象になります。そのため病棟に薬剤師がいる時間が増えますので、気軽に声をかけて頂きたいと思っています。

この業務を開始するに当たり薬剤師に対する期待が非常に大きいことを実感します。ただ当初の予定とは異なり、ICUも対応しなくてはならなくなり、その上がん患者指導管理料3（九州グループ内で6施設実施）も実施しています。このように予定外の対応と外

来がん患者さんの指導を行っているため、薬剤師のスケジュールに余裕がありません。

しばしばやれば出来ると言われますが、誰でも努力すれば相撲取りになれるわけではありません。相撲取りになるにはそれなりの素質や基礎が必要です。つまり出来ることと出来ないことがあるということを理解する事が大切です。その上で出来ることに努力して量をこなし質を高めることです。そうすれば新たに来る業務が現れて今度はそれをするのです。このようにして業務を徐々に拡張してゆけばあまり無理をしなくても済むのではないかと思います。どんなに素晴らしい人も出来ることしかししないのです。今年出来ないことに夢を描くのではなく、出来ることを確実に効率よく実行して振り返れば良い一年が送れたと思えるような年にしたいと思っています。「出来ることから始めよう！」まさにQC活動そのものです。今年も元気にまいりましょう。

# 第70回 国立病院総合医学会

会期：2016年11月11日（金）～12日（土） 会場：沖縄

去る、平成28年11月11日（金）～12日（土）に沖縄県で『第70回 国立病院総合医学会』が開催されました。当院からは座長（5セッション）を始め、発表者（18演題）の他、多くの職員が参加し、今回はベスト口演賞、ベストポスター賞を各1名が受賞されました。（右記に受賞者の喜びの声を掲載しています。）

今回、参加された皆さんは本当にお疲れ様でした。

## ● 座長一覧

発表形式	セッション名	座長	職名等
口演発表	医療連携・地域連携-3	奈須 伸吉	統括診療部長
口演発表	泌尿器科	奈須 伸吉	統括診療部長
口演発表	環境整備・手術部位感染	三重野純子 (小田原美樹)	ICN 副看護師長 (九州医療センター)
ポスター発表	消化器、肝胆膵疾患	福地 聡士	消化器内科部長 (現 アルメイダ病院)
ポスター発表	スタッフ教育	森崎 久美	看護師長

## ● 発表者一覧

発表形式	演題名	発表者	職名等
口演発表	異業種と連携におけるソーシャルワーカーの役割	岡江 晃児	<b>ベスト口演賞</b> 医療社会事業専門職
口演発表	早期膵管癌の3例：診断に不可欠な膵管細胞診における、核の膨隆サイン (Nuclear Bulging Sign, NBS) の意義	森内 昭	研究検査部長
口演発表	カドサイラにて長期生存が得られている進行乳癌の1例	的野 る美	外科医師
口演発表	診療情報管理士として診療材料費をマネジメントした取組事例	管 慎哉	診療情報管理係長
ポスター発表	入退院を繰り返す患者の在宅支援にむけた連携に取り組んで	平田 麻希	<b>ベストポスター賞</b> 看護師
ポスター発表	超音波診断装置におけるフュージョンイメージの臨床的有用性について	中村 雄介	臨床研究部長
ポスター発表	術前に診断し得た退形成性膵管癌の1例	大塚雄一郎	消化器内科医師
ポスター発表	腹腔鏡下前立腺全摘除術後の鼠径ヘルニア再発についての検討	甲斐 博宜	泌尿器科医師
ポスター発表	ダブルチェックの効果を高める実践的な取り組み ～インシデント・アクシデントの再発・未然防止を目指して～	大久保博史	副薬剤部長
ポスター発表	流動パラフィンを用いて調製した CMC 軟膏の臨床での効果の検討	濱野 麻子	薬剤師
ポスター発表	頭部3DCTA 時におけるフィルターの検討	増井飛沙人	R I 検査主任
ポスター発表	心臓カテーテル血管撮影装置の被ばく線量管理についての報告	菊田 真弘	診療放射線技師
ポスター発表	理学療法士の視点からみた転倒・転落アセスメントシート身体機能評価項目の検討	梶原 秀明	理学療法士長
ポスター発表	患者・家族の想いに沿った退院調整に取り組んで	清水 諒子	看護師
ポスター発表	認知症患者の食事環境改善に向けての取り組み	小坂 貴子	看護師
ポスター発表	視覚化アプローチを使った退院支援	椎原 優子	医療社会事業専門員
ポスター発表	個人情報保護改善の取り組みについて	安東 直人	経営企画係
ポスター発表	省エネを通じたコスト削減に向けての取り組みについて	高園 和明	契約係



## 国立病院総合医学会に参加して



### ベスト口演賞

医療社会事業専門職 岡江晃児

11月11・12日に沖縄で開催された国立病院総合医学会にて口演発表し、なんとベスト口演賞を受賞することができました。2年前の第68回国立病院総合医学会の口演発表で初めてベスト口演賞を受賞し、今回2回目の受賞となりました。口演の内容は、同業種等の連携だけでなくプライダル関係者といった異業種との連携を行ったソーシャルワーク実践について「異業種と連携におけるソーシャルワーカーの役割」という題目で発表しました。今回の発表を通して、ソーシャルワーク支援の可能性についてフロアの方々と交流できたことは私にとって非常に意義ある時間となりました。今後もこの受賞を糧に、患者さんの目標を支援するために患者さんと地域や社会と繋ぐソーシャルワークそして実践を言語化していけるよう精進していきますので、地域医療連携室・ソーシャルワーカーにご支援のほどよろしく申し上げます。



### ベストポスター賞

1階病棟看護師 平田麻希

平成28年11月11、12日に沖縄県で開催された第70回国立病院総合医学会に参加させて頂きました。「医療構造の変化と国立病院機構に問われる役割～一命(ぬち)ぐすい、温かい医療を広げよう～」というテーマの下に様々な口演発表・ポスター発表が行われ、とても刺激を受けた2日間でした。

私は「入退院を繰り返す患者の在宅支援にむけた連携に取り組んで」という演題でポスター発表を行いました。会場の熱気に圧倒され、緊張と不安ばかりでしたが、発表後は色々な方に興味を持って頂き、質問や意見を頂戴しました。入院中の患者さんを在宅療養に繋ぐ為には外来、地域との連携が重要だと再認識しました。他病院の方と意見交換も行うことが出来てとても貴重な経験となりました。また、ベストポスター賞を頂くことが出来、忘れられない学会となりました。

今回のテーマの中にある「一命(ぬち)ぐすい」とは沖縄の言葉で「心が癒される出来事(親からの愛情、美味しい料理、おもてなしなど感銘を受けた事柄など)の事象の総称」を表す



言葉とのことです。今回の学会で学んだことを糧に、入院生活を過ごす患者さん、ご家族が少しでも癒しを感じてもらえるような看護を提供していきたいと思います。

最後になりましたが今回の発表にご協力頂いたすべての方に感謝申し上げます。



## 平成28年度 医療安全研修会

# ヒヤリハット小劇場 第7弾

医療安全管理係長

安藤 万寿美

今回のヒヤリハット小劇場のテーマは、「輸血の正しい取り扱いについて」で実演しました。他施設から持ち込まれた輸血をどのように取り扱えば良かったのか、互いの伝達はどのようにしたら効果的であったのか、ヒヤリハット小劇場を通して検討しました。また、大分赤十字血液センター 学術・品質情報課臨床検査技師の吉武成彦先生から、「輸血過誤の防止」として実例を交えながら輸血の取り扱いについて講演をして頂き事故の怖さとその対策を学ぶこと

ができました。特に、「輸血は「血液」という臓器の移植」という言葉は印象に残りました。参加者からは、「確認や伝達不足により重大な事故につながることを改めて認識しました」「患者確認の大切さを再認識できた」と確認作業の重要性を再確認できたという意見を多く頂きました。

今回も芸達者なスタッフに助けられました！ 次回もお楽しみに！！



## 特別医療安全研修会

# 最強医療コミュニケーション なんでやねん力

医療安全管理係長

安藤 万寿美

近隣医療施設合同の研修会を開催しました。講師は、大変多忙の漫才師のWマコトこと中山真先生と中原誠先生をお迎えして、最強医療コミュニケーション「なんでやねん力」として、講演をして頂きました。笑いっぱいの中、コミュニケーションに必要な「笑顔」「相槌」「承認」について、いろいろなお笑い芸人さんを例えにして、参加者の心をつかみ、あっという間の時間でした。

参加者からは、「コトの話しを聞いてどのような研修になるのかと思ったけど、信頼関係をつくる大切さを勉強できました。」「とても楽しかった、元気になりました」「職場を盛り上げたいです」と笑いの中から、しっかりとコミュニケーションに大切な事や仕事に対する姿勢について考え



るよい機会になったと感じました。

講演終了後も二人の会話は、講演同様にボケと突込みが自然に交わされ息ぴったりで、またチャンスがあったら当院での研修が実現出来たら良いなあと感じました。







## キャンドルサービスに参加して

医療サービス向上推進委員  
山本 真由美

「12月22日はキャンドルサービスがあるから帰りは遅くなるよ」と母に告げると、8年前に大分医療センターに入院していた母から『ああ、キャンドルサービスね。前に入院していた時に、担当の看護師さんからクリスマスカードを貰ったのよ。あの時、とっても嬉しかったわ』と嬉しそうに話す母の姿を見て、入院している患者さんたちはこの日を待っていてくれるんだなと実感しました。22日当日は例年よりも早い時間からキャンドルサービスを開始しましたが、あいにくの天候で既に空は薄暗く、LED仕様のキャンドルの灯（微妙に光り方が変わるライトが本物の蠟燭の炎

のようでした）が幻想的な雰囲気醸し出していました。医師・看護師・理学療法士・栄養士など、様々な職種の職員が入り混じりチームを編成。「きよしこの夜」「もろ人こぞりて」を歌いながら病棟の廊下をゆっくりと歩みを進めていきました。患者様や面会に来ていたご家族の皆様方が病室の入り口まで出て来てくれ、一緒に口ずさんでいる姿を見て、患者サービスの一環で実施した企画でしたが、医療者側も心温まる思いでした。患者様の入院生活に少しでも癒しと楽しみを提供できるよう、今後もこのような企画を計画していきたいと思いました。



## クリスマス・コンサート開催!

医療サービス向上推進委員  
三宅 修二

12月25日の日曜日。まさにクリスマス当日に院内クリスマス・コンサートを開催しました。演奏は毎年恒例のミッツ・ジャズ・オーケストラの13名の皆さんです。院長先生の話では当院でのコンサートは2000年12月から始まり16年目を迎える（途中中止がなければ・・・）とのことで、まさに年末の風物詩となっております。日曜日ということもあり、患者様だけでなくご家族、ご面会の方にも大勢参加いただき、大会議室は外の冷気を吹き飛ばす熱気で溢れていました。演奏曲目は、本格的なJAZZはもちろんのこと、演歌からポップスまで幅広いジャンルで楽しませてもらいました。1時間という短い時間ではありましたが、ここが病院であることを忘れるくらいの楽しいひとときでした。

毎年、この忙しい師走に患者様のために演奏会を開催していただきミッツ・ジャズ・オーケストラの皆さんには本当に感謝です。ありがとうございました。







# がん相談支援センター

医療社会事業専門職 岡江晃児 がん相談支援ナース 廣田 紘子



11月15日当院がんサロンにて、第3回がん川柳五・七・五の優秀作品の表彰式を開催しました。

優秀作品に選ばれた方を当院がんサロンにお招きし、当院の室院長から表彰状と記念品の授与を行いました。その後、優秀作品に選ばれた方に、17文字に込めたがん川柳の思いを語ってもらい、がんサロンに参加された方々と共有することができました。がん川柳を通して、直接人と人が交流する空間は心のケアに繋がっていると実感しました。そして、当日は地元新聞(大分合同新聞社)の取材もあり、後日11月28日夕刊に記事になりました。その後、NHKの方からこのがん川柳の活動の取材があり、九州各県そして全国放送でがん川柳の活動が紹介され、年々多くの方々に認知されてきています。

今後の活動として、好評である「がん川柳集」を第3回・平成28年度版として作成し、平成29年春刊行に向けて準備しているところです。また、平成29年1月に日本文化らしいがん川柳をNASW(The National Association of Social Workers)の学会にて発表予定(アメリカ・ハワイ)で、海外のソーシャルワーカーと情報共有して議論していく予定です。がん相談支援センターの相談員として今後も積極的にがん患者の支援を行ってまいりますのでよろしくお願いいたします。







第70回  
国立病院総合医学会  
(沖縄)

# 初めての学会発表



経営企画係 安東 直人

11月11日、学会1日目の昼12時頃に「個人情報保護改善の取り組みについて」という表題でポスター発表をさせて頂きました。国立病院機構に入職して3年目とまだまだ未熟なところが多々ある中で今回、国立病院総合医学会という大規模学会に参加させて頂けたことに深く感謝申し上げます。多くの人が集まる場での発表というのは初めてで緊張感が大きく、台本通りの言葉が出ないところもありましたが最後の座長からの質問も答えられ、無事に発表を終えることができました。今回、ポスター完成までの過程が思うようにならず、多くの方々にご迷惑をかけるかたちになってしまいました。そのことを深くお詫び申し上げますと同時に最後まで多くの方々から協力頂いたことに深く感謝申し上げます。

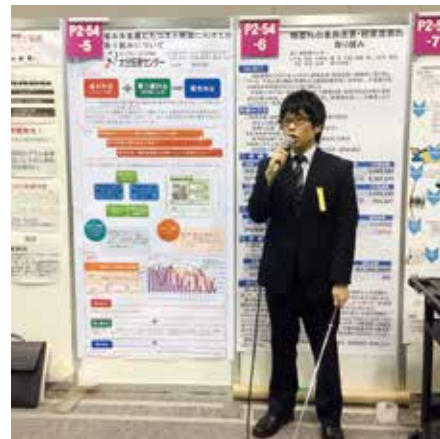


契約係 高園 和明

今回初めて国立病院総合医学会に参加しました。沖縄で開催されるということでたくさんのおいしいものに期待をよせ、また発表のことが頭から離れず大分を出発し学会が始まる前日の午前中には大分を出発しました。

発表当日は朝早起きをし、まずポスター会場に向かいました。そこではすでにたくさんの方がいてポスターが貼られており、改めて国立病院機構の大きさを実感しました。午前中は他の方のポスターを見てまわり、午後は自分のポスター発表でしたが、本番直前まで緊張で他の人の発表が全然頭に入りませんでした。ですが、いざ発表を始めると大きな失敗もなく発表を終わることが出来ました。私がポスター制作をするにあたって他の事務の方にさまざまなアドバイスを頂き、また何度も発表の練習をして頂いたおかげだと思っています。

おいしいものも食べられ今回の学会はとても有意義でした。このような機会を頂きありがとうございました。





# 合同忘年会に参加して

給与係長  
米丸 淳一

去る平成28年12月21日、当院の一大イベントの一つ(?)とも言える合同忘年会が開催されました。今回の参加者数は170名を超え、これまで以上の賑わいぶりとのこと。室院長の挨拶では、干支にちなんで「来年は鳥のように羽ばたいて」と励ましの言葉をいただき、改めて身の引き締まる思いでした。

続く余興では、①地域医療連携室に始まり、②ほっとステーション③放射線科④5階病棟⑤2階病棟⑥4階病棟⑦3階病棟⑧1階病棟と、昨年を上回る8組が参加し、どの部署も気合の入る具合を感じます。PPAPや恋ダンス、Perfect Humanといった今年の流行を繰ざらいする部署もあり、またそれに頼らずオリジナリティ溢れる余興で笑いを誘う部署もあり、大いに盛り上がりました。順位は甲乙つけがたかったようですが、3階病棟が見事栄冠を勝ち取りました。その熱気も冷めぬままビンゴゲームに突入し、景品ゲットを夢見る皆さんの悲喜交々とした

表情が印象的でした。

最後に奈須統括診療部長より締めめの挨拶をいただき、盛大な宴が終了しました。

あっという間でしたが、充実した2時間でした。準備も含めて運営に携わった方々は本当にお疲れさまでした。

院長挨拶



余興風景



## 大分医療センターのロゴマークについて

### 全体のコンセプト

Oita National Hospital (旧国立大分病院)の頭文字をロゴマークの形であらわしており、さらに「O」は病院の所在地である「大分市」及び「大在」の地名を示している。

これを、海・空・太陽・緑の大地を立体的に示す色合いで表現したものである。



「緑と赤」…昇る朝日と緑豊かな大分の地を表す。

「青」……大分医療センターのシンボルカラーを示し、私達医療従事者を表す。

「黒」……地域と大分医療センターを結ぶ架け橋を表す。

## 編集後記

「明けましておめでとうございます」— 昨年交わしたこの言葉も、もう1年経つのかと思うと、時の経過は早いものだと改めて感じます。

年が明けてついつい見えてしまうテレビ番組の一つ、箱根駅伝。ご覧になった方も多いのではないのでしょうか。青山学院大学が箱根駅伝3連覇、大学駅伝3冠という偉業を達成しました。途中7区でアクシデントがあったものの、次の8区を任された下田選手はその影響を全く感じさせない好走で区間賞を記録。なんでも「アクシデントが起こる可能性も想定していたので、平常心でしっかり自分の走りができたのが良かった」のだとか。大学生にも関わらず社会生活上必要な危機管理能力を備えているとは立派だな、と感心するとともに、自分自身はこういう大舞台でのアクシデントの際に、はたして平常心でいられるのかと思うと、まだまだだなと改めて思う次第でした。

そんなまだまだな自分自身も、今年の干支よろしく、未来へ向かってよい方向へ羽ばたいていければと思います。また当院の一員としてもよい羽ばたきに寄与できればと思います。

本年も当院をどうぞよろしく願い申し上げます。  
編集委員一同

## 編集委員

### 委員長

穴井 秀明 (副院長)

### 委員

姉川 俊也 (事務部長)

中村 雄介 (臨床研究部長)

竹之内須賀子 (副看護部長)

山本真由美 (教育担当部長)

高瀬 由香 (2階病棟副看護師長)

三宅 修二 (管理課長)

田辺 俊介 (経営企画室長)

内田 信也 (業務班長)

生野 充章 (専門職)

米丸 淳一 (給与係長)

岡江 晃児 (医療社会事業専門職)